

## 地域とともに創る花と笑顔あふれる公園へ ～浮間公園に1万本のチューリップを！～

公益財団法人東京都公園協会

浮間公園サービスセンター

三村 和子

### I. はじめに

都立浮間公園は、昭和42年に開園し、浮間ヶ池と風車が印象的な公園で、JR埼京線「浮間舟渡」駅下車徒歩1分、北区・板橋区の区界に位置するアクセスのよいところにある。公園面積の約40%を占める浮間ヶ池は、荒川放水路が開削される以前の荒川本流だったところで、この池とバードサンクチュアリを中心に数多くの野鳥が観察でき、また都立公園ではめずらしく釣りが楽しめる。公園東側の一角には、かつてのサクラソウの名所として知られた浮間ヶ原の伝統を伝える桜草圃場がある。また運動施設としてテニスコートと野球場があり、そのほか子ども向け遊具のある広場やじゃぶじゃぶ池などもある幅広く利用いただける公園である。本稿では、令和2年度からはじまり、今も進化・発展し続けている浮間公園の地域と一体となった花壇づくり等の取組みについて紹介する。

### II. 協議会「チーム UkiUki ミーティング」の立ち上げ

令和2年2月、浮間・舟渡地域を対象としたオープンハウスを開き、「子どもの体験活動や、飲食できる快適な空間がほしい！」という、ニーズが多くあることに着目。そこから地域の企業、市民団体、公園指定管理者が連携し、北区・板橋区の垣根を超えた協働で、新たな魅力づくりに取り組む「うきまガーデンカフェプロジェクト」を立ち上げ、公園協会を含む10団体と協議会形式の「チーム UkiUki ミーティング」を設置。定期的な意見交換や事業運営を通じて、浮間公園のランドマークである風車広場を中心に日常的にくつろげる空間創出を目指していくこととした。

### III. ボランティア団体「うきうき隊」の組織

浮間公園では、それまでは個人ボランティアの方たちが園内の花壇の植栽等を手掛けていたが、後ほど記載するチューリップの広場づくりを持続するために、令和2年度に「うきうき隊」という、地域の親子連れを中心としたボランティア団体を立ち上げた。この団体は、みんなでうきうきと楽しみながら地域をよくすることを目的としているため、花壇管理だけではなく、園内でのワークショップや清掃活動など、その活動内容は多岐に渡っている。公園管理者としても地域のつながりが自然と生まれ広がる「だれもがくつろげる空間づくり」の実現のため、うきうき隊とともに一年を通じた広場の活用方法について話し合いを重ね、「“やってみよう”で描く広場の将来像」を作成し、ビジョンを共有。このことによって、「うきうき隊」の自発的な企画や取組が始まり、ヨ

が、絵本の読み聞かせ、昔遊びなど、多世代が交流する新たな事業が展開されていった。



写真1：ワークショップの様子



図1：“やってみよう”で描く広場の将来像



写真2：音楽と合わせた絵本の読み聞かせ



写真3：ぶんぶんコマをつくろう

#### IV. 都民協働による持続可能なガーデンづくり

「うきうき隊」を主体とした活動に、コミュニティガーデンの手入れがある。まずは、ワークショップを通じて構想を練り、5つのテーマ毎にゾーン分けしたイメージを図案化。

- ①低木や宿根草で骨格を作り、ヒマワリなど季節感あふれる一年草で彩る「おもてなしガーデン」
- ②ハーブを中心に、見て、触って、香って、お茶やクラフト素材としてワークショップにも活用できる「五感で楽しむガーデン」
- ③ススキやアジサイ等、日本らしい季節を感じることができる「和ガーデン」
- ④鳥が好きな実のなる木や、チョウやミツバチの蜜源植物等を中心にデザインされた「生きもの観察ガーデン」

⑤風車のある広場の法面の下方に帯状に連なり、春には1万球の花々が咲き誇る「チューリップガーデン」

これらのガーデンは「うきうき隊」の他、ランドスケープデザインを学ぶ東京農工大学の学生や近隣8保育園など、多くの方々の協力を得て、令和3年から造成を開始。広場に、子ども用じょうろを備え付けることで、草花に水やりするちょいボラ「お水あげ隊」の活躍もあり、一年を通じたお手入れ活動が展開され、地域コミュニティ活性化や、多世代交流の促進にも繋がっている。

また、「うきうき隊」の活動は公園のツイッターやうきうき隊の公式 SNS でも発信、周知し、当日来園された方でも参加できる受入態勢を整えているため、小さなお子様連れが気軽に参加できることが特徴と言える。令和4年度は4月から2月までの間に、延べ1,000名を超える方が花壇活動され、地域に愛される魅力スポットを創出することができた。

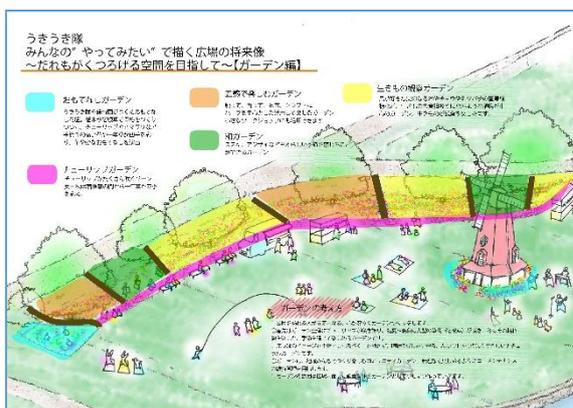


図2：ガーデンのゾーン分け

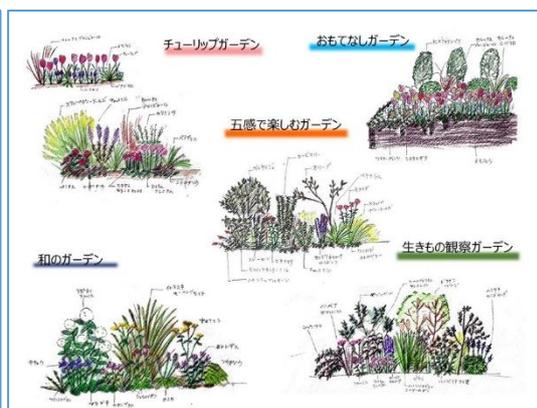


図3：各ガーデンの植栽イメージ



写真4：たねダンゴをつくる保育園児



写真5：保育園児が花壇活動する様子



写真 6：土壌改良する大学生



写 7：大学生が低木等を植栽



写真 8：うきうき隊の活動の様子



写真 9：親子でお楽しみワークショップ



写真 10：親子で一緒に草取り



写真 11：子どもたちが大活躍「お水あげ隊」

## V. 1万本のチューリップと笑顔あふれる浮間公園へ

さらにこの広場が、地域に愛される魅力スポットとなった大きな要因の一つに、令和2年からはじまり、今年で3年目を迎えた「1万本のチューリップ」事業が上がられる。浮間公園のランドマークとなる風車と調和したチューリップの咲き誇る景色を演出したいという「チームUkiUki ミーティング」の発案によるもので、球根の購入資金を

確保するためにクラウドファンディングを実施した。その結果、「こんな企画を待っていました！大好きな浮間公園が素敵になるプロジェクト、本当に嬉しいです！」や「幼い頃から知っている公園がチューリップでいっぱいになるのが楽しみです。応援しています！」といった多くのコメントとともに支援をいただき、3年連続で目標額を達成することができた。

毎年12月初旬の植付けイベントでは、「うきうき隊」や協議会メンバーをはじめ、150名近くの協力を得て1万球の球根を植付けており、春は色とりどりのチューリップでおもてなしする、くつろぎ空間を提供している。



写真12：たくさんの球根をミックス



写真13：小さな子も球根植付にチャレンジ！



写真14：親子で球根の植付



写真15：参加者そろって集合写真！

## VI. UkiUki マルシェ

「うきまガーデンカフェプロジェクト」では、風車のある広場を「くつろぎの広場」と位置づけたのに対し、浮間舟渡駅から徒歩1分程ある入口広場を「賑わいの広場」と位置づけ、地域の飲食や物販でおもてなしする「UkiUki マルシェ」を企画してきた。これまでは、コロナ禍による影響のため、風車広場で規模を縮小して「プチマルシェ」を

開催してきたが、今年度秋によりやく念願だった「UkiUki マルシェ」開催。地域の20店舗以上が出店し、ステージやワークショップを展開すると、初開催にも関わらず8,000名が来場するなど地域の新たな賑わいを創出するとともに、コロナ禍の地域店舗救済や、チアダンスやフラダンス等の発表の場としても機能することができた。

また同様に、子育て支援団体やNPOと連携して開催した「キッズスマイルフェスタ」も大盛況でこちらも8,000名が来場するなど、「チームUkiUki ミーティング」メンバーのそれぞれの個性や強みを活かした、新たな事業が次々と展開されている。



写真 16 : UkiUki マルシェ開催



写真 17 : フラダンス等の発表

## VII. 設置許可受者や、都事業との新たな連携

令和3年2月、東京都の多面的活用事業によりコメダ珈琲店がオープン。開業前より「チームUkiUki ミーティングメンバー」に参加いただき、不法駐輪やテイクアウトによるゴミ等の地域課題対策にも連携して対応しつつ、店内の無料休憩スペースを活用したフォトコンテストや、SNSを活用した謎解きゲーム、店舗のウッドデッキ前にある花壇づくり等、公園とカフェが一体になった賑わいづくりを進めている。



写真 18 : コメダ珈琲店前花壇の球根植付



写真 19 : みんなで記念撮影

また、令和4年3月には、東京都の「花と光のムーブメント」とのタイアップにより、チューリップや桜、風車等をライトアップし新たな魅力を創出した。「チームUkiUki ミーティング」の広報力やJRとの連携によって、多くの来園者を迎え、民放による天気中継や個人のSNSにも多く取り上げられるほど注目を集め、今春も、桜草保存会や地元北区とも連携した新たな魅力創出に取り組んでいる。



写真 20：民放による天気中継



写真 21：花と光のムーブメントによるライトアップ



写真 22：写真撮影する来園者



写真 23：新たなビュースポット

## VIII. おわりに

以上、地域と一体となった花壇づくりやイベント運営を通じて、子どもからお年寄りまで地域に新たなコミュニティが生まれ、自発的な企画や活動に繋がり、公園や地域の愛着を醸成してきたこと実感することができた。私たちはこれからも、公園と地域の繋がりを広げつつ、公園を中心とした地域の魅力や賑わいの向上に寄与していきたい。